

子どもの本や、子どもの読書活動の県内外の情報をお届けします！

山梨県立図書館 TEL055-226-2586 <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

～ 県内のニュースから ～

甲斐市で幼稚園・保育園に移動図書館

甲斐市立図書館では、「甲斐市子ども読書活動推進計画」の一環として、子ども達が本と接する機会を増やすために、2010年から市内の幼稚園・保育園等で移動図書館を実施しています。



図書館からたくさんの本を選んで持っていき、直接子どもと話をしながら貸出をしています。また、おはなし会を行うこともあるようです。持って行く本は、各機関の選定本や長年読み継がれている絵本、新刊本の中から職員が選んだよい絵本などを中心に、対象年齢や行事、幼稚園・保育園からの要望等に考慮しながら決めるそうです。

子ども達は楽しそうに本を選んだり、図書館の時とは違う雰囲気でのびのびと好きな本を探したりしています。幼稚園・保育園でも絵本を手に入る回数が増え、じっくり読む子も見られるようになったそうで、すでによい反応があるようです。また、保護者も一緒に本を選ぶため、家庭での関心が高く、あまり図書館に行けない方も本が借りられるので、評判がよいそうです。さらに、図書館職員も、子どもや保護者が図書館にきたときには顔見知りで話ができたり、常に子どもの本に目を向けているため、スキルアップにもつながっているとのこと。

甲斐市の移動図書館は始まったばかりですが、図書館、保育園、家庭の三者につながりが生まれ、それぞれにより結果をもたらしているようです。今後の活動に期待が高まります。

作家研究 女の子に人気の絵本・児童書作家 あんびるやすこ



■プロフィール

群馬県生まれ。東海大学文学部日本文学科卒業。テレビアニメーション「あんみつ姫」等の美術設定を担当。その後、セーラームーン等、テレビキャラクター玩具の企画デザインの仕事もしながら、絵本・児童書の創作を始める。子どもの頃になりたかった職業は、ファッションデザイナー、おもちゃを作る人など。最近では、ヤングアダルト向けの「アンティークFUGA」シリーズ（岩崎書店）も執筆。

■主な作品

「なんでも魔女商会」シリーズ（岩崎書店）
森の中にある素敵なお店、なんでも魔女商会お洋服リフォーム支店。お店の主人は、ちょっと冷たい感じのお裁縫魔女シルク。ある日、普通の人間の女の子ナナは、このお店を見つけて思わず入ってみます。

おもちゃの企画に携わった経験を生かし、人気の洋服や雑貨、流行を取り入れながら、心温まる作品を伝えていくという思いで書いているそうです。

「魔法の庭ものがたり」シリーズ（ポプラ社）
普通の人間の女の子ジャレット。ある日突然、彼女に不思議な手紙が届き、ハーブ魔女トパーズの遺産である、古いお屋敷とハーブガーデン「魔法の庭」、そしてトパーズが書いた薬草の本「レシピブック」を相続することに…。ジャレットは、

トパーズの跡を継いで「ハーブの薬屋さん」になることになったのです。

「魔法の庭」は、あんびるさんがイギリスを旅行した時に見たイングリッシュガーデンがモデルになっています。その時に彼女の心をつかんだのがハーブ。現在は日常生活でもハーブを楽しんでいるそうです。

『せかいちおいしいレストラン』

（ひさかたチャイルド）

ある日、森の動物たちに届いた招待状。「せかいちおいしいレストラン」からです。ウサギさん、リス君、アオムシ君が早速お店にやってきました。さて、どんな料理が出てくるのでしょうか？

あんびるさんは食べ物を描くのが大好き。「最初から最後まで食べ物が出てくる話を描きたい」との思いからこの作品が生まれました。レストラン選びの前には「中をのぞいてから」という方も多いでしょう。そんな方のために、こっそりお店の中がのぞける楽しいしかけ絵本になっています。

* あんびるやすこを知る

あんびるやすこオフィシャルホームページ

「ちいさなしっぽ協会」

<http://www.ambiru-yasuko.com/index.html>

※参考資料

・毎日小学生新聞 2011年6月19日

・「こどもの本」2004年1月号、2005年11月号、2010年9月号

絵本原画の魅力 2 【軽井沢絵本の森美術館】

信濃鉄道中軽井沢駅の南、塩沢湖を少し南下した所にあります。樹木の間を抜けると、なだらかな斜面につくられた美術館が見えてきます。第1・第2展示館、絵本のお店、絵本図書館に分かれています、どれもモノトーンの落ち着いた雰囲気建物です。

常設展では、欧米の絵本や『アバディのパン』『みずまき』などの作品がある木葉井悦子氏の原画が見られます。

第1展示館の中に設けられたスペースには、児童文学者の吉田新一氏のコレクションである児童書や研究書の詰まった本棚が並んでいます。一面には研究スペースがあり、5000冊余りの文庫は申込みをすれば閲覧できるよう。また、休憩スペースにはしかけ絵本を手にとって見る事ができるコーナーがあります。絵本図書館には日本

・外国語あわせて1800冊以上の資料があり、椅子に座るなどして自由に見ることができます。

売店では絵本その他、絵本に登場するキャラクターグッズなどが販売されています。展示館にあるしかけ絵本や、美術館で作成した『子どもといっしょに読みたい絵本ベスト100』（メイツ出版、2010）も手に入ります。

道を挟んだ反対側にはエルツおもちゃ博物館があり、積み木や人形など主に木で作られた玩具が展示されています。美術館と博物館で大人も子どもも楽しい1日が過ごせそうです。

★開館時間：9：30～17：00（3～11月） 10：00～16：00（12～1月）（最終入館は閉館時間の30分前）

★所在地：長野県北佐久郡軽井沢町長倉182（風越公園） 電話：0267-48-3340

★URL：<http://ehon-museum.org/>



●○活動紹介○● みんなで絵本の世界を楽しめる！「まーの・あ・まーの」のおはなし会

耳の聞こえない小さな子どもに、絵本を楽しんでもらうには？手話での読みきかせを通して絵本の楽しさを伝えるグループ、まーの・あ・まーのの皆さまにお話を伺いました。

——会のことを教えてください。

1) 運営方法

月に1回ほど、運営スタッフが集まり、次回の読みきかせ会の内容（絵本、アニメーション、その準備について等）や今後の会の活動についての話し合いを行っています。おはなし会は年に4回実施できるように計画しています。

2) メンバー

運営スタッフ：聴覚障害者1名、聴者*4名（県外に1名）
当日スタッフ（受付、写真・ビデオ撮影、工作の支援など当日のみの手伝いをするスタッフ）：約5名

*耳の聞こえる人

3) 活動について

おはなし会は甲州市立勝沼図書館および山梨県立図書館を会場にしています。絵本を事前に読み、手話表現やページをめくるタイミングなどの練習を行っています。可能であれば、手話の読みきかせの様子を、スタッフや同じように手話の読みきかせを行うろう者にみてもらっています。何人かのスタッフで大掛かりな読みきかせを行うときは、事前に練習時間をとり、練習をしています。

——おはなし会について教えてください。

運営スタッフで相談して、メインになる絵本ともう一冊短めのお話を選んでいきます。擬音語が多い本、音声のイントネーションを楽しむような絵本、視覚的に表現しにくいものは手話に訳すのが難しいです。ページをめくっていったときに場面の展開が飛びすぎると、つながりを表現しにくいこともあります。

おはなし会の情報は、新聞や甲州市立図書館のwebサイト、山梨県聴覚障害者情報センターの掲示板、甲州市の広報でお知らせしている他、山梨県立ろう学校でビラを配布しています。

今後、参加者にメールでお知らせをする予定です（希望者のみ）。

——手話での読みきかせについて教えてください。

それによる子どもの変化など。

見ている子どもの様子を確認しながら読みきかせをします。

子どもたちの変化については、「手話での」といわれどと答えられませんが、「まーの・あ・まーの」のおはなし会に続けて参加してくれる子どもたちの様子を見ると、だんだん会の進め方に慣れてきている様子が見られ、新しく来る子どもに手助けをする様子も見られます。

——ありがとうございました。

実際におはなし会に参加した印象では、手話によって絵本の中味が飛び出してきたような感じを受けました。メンバーの方の生き生きとした手話が、耳の聞こえる子も聞こえない子も絵本に惹きつけていくのがよくわかりました。色々な人と一緒に同じものを楽しむ場というのも他にはなかなかないのではないかと思います。

「読みきかせをする聴覚障害者を増やしていきたい」というグループの思いも、少しずつ広がっていくよう願っています。